

広報

なんせい

第27号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて今期もさとうきびに大きな台風被害が出てしまいました。丹精込めて育ててこられた農家の皆様の落胆は如何ばかりかとお察し致します。来期こそは豊作をとの思いは弊社も同じです。今期のさとうきびの収穫量は16万ト余りと本来ならば年内操業は難しい所ですが、来期に向け皆様に植え付けや管理作業を適期に行って頂けるよう、弊社は年内操業を決めました。国もここ2年の気象災害を重く見ており、農水副大臣や国会議員も被災直後に来島するなど迅速に対応し、セーフティーネット基金に関しては農家の皆様に寄り添う形で発動条件を柔軟化しています。

代表取締役社長
田村 順一

新年のごあいさつ

適期の植え付け・管理作業に関しては、担い手が不足する状況を打開するには機械化が不可欠であります。弊社では一昨年よりハーベスター収穫苗をビレットプランターで植え付ける一貫機械化を関係者と実地調査してまいりました。技術面、コスト面で改良余地は残っています。が、主に大型農家向けの採苗、植え付け作業効率化の切り札となると確信しております。また一般農家向けには小型トラクター適用のミニプランターを開発し貸し出ししています。新植面積は5年前の1,465畝をピークに一昨年は913畝と1千畝を割り込みましたが、昨年は春植え、夏植え共に一昨年以上回り、合計で1,058畝を皆様に植えて頂きました。

弊社はこれからも行政はじめ関係機関と強く連携し、収穫面積の回復と単収向上に役割貢献し、2工場を維持することで徳之島の経済と社会の維持発展に貢献してまいります。

末尾となりましたが、今年1年、皆様のご健康にございれ、幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。

今期の製糖計画

キビ処理見込量		16万3,544ト
製糖開始日		平成30年12月20日(木)
年内搬入終了日		平成30年12月26日(水)
年明け搬入開始日		平成31年1月9日(水)
工場 休止 日	年末年始	平成30年12月27日(木) ～平成31年1月8日(火)
	春植推進日 (予定)	①平成31年2月6日(水) ～平成31年2月10日(日) ②平成31年3月6日(水) ～平成31年3月12日(火)
キビ搬入終了予定		平成31年4月2日(火)

新役員体制

弊社第53回定時株主総会並びに取締役会におきまして下記のとおり役員が選任され、それぞれ就任いたしました。

つきましては、今後とも社業発展のため一層精励いたす所存でございますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長	田村 順一
常務取締役	新高 美垣 建志
取締役	高大 久崎 武信
取締役	伊藤 左地 夫也
取締役(非常勤)	平益 藤 哲昭
取締役(非常勤)	田 田 昭 夫
監査役(非常勤)	益 田 幸 一
監査役(非常勤)	三 浦 直 貴

なお、取締役 川上昌之は、本総会をもって退任いたしました。在任中、賜りましたご厚情に厚く御礼申し上げます。

さとうきびの生育 及び登熟状況

昨年秋までは気象に恵まれ、豊作を大いに期待していたところでしたが、9月末の台風24号が瞬間最大風速64m/sを記録するほどの猛烈な勢力で徳之島を直撃した後は、さとうきびが受けた被害は甚大なものとなりました。

しかし、12月中旬には写真のようにすっかり回復して、二目には台風被害の痕跡がわからないほどになりました。

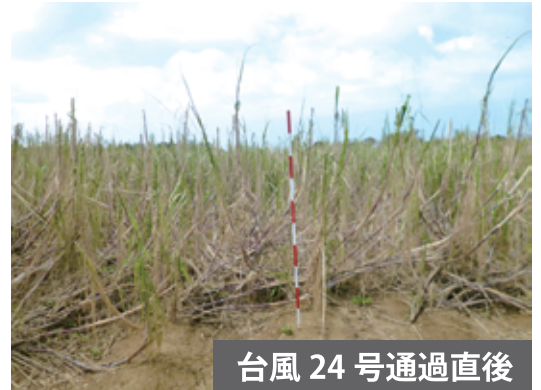
風害や潮害を受けたさとうきびは、約1か月の間はそれまで蓄えた砂糖を体の修復に充当し、その後改めて砂糖を作り出し蓄える作業に入っていきます。

グラフに示すブリックスは甘蔗糖度とほぼ同じ変動を示す成分です。台風後、一か月間はブリックスが低下していますが、上昇に転じた後の推移は順調で、12月中旬の記録は平年値に近いところまで回復していることが読み取れます。

平成24/25年期にも今年と同様、9月末に大きな台風被害を受けましたが、こ



12月中旬撮影

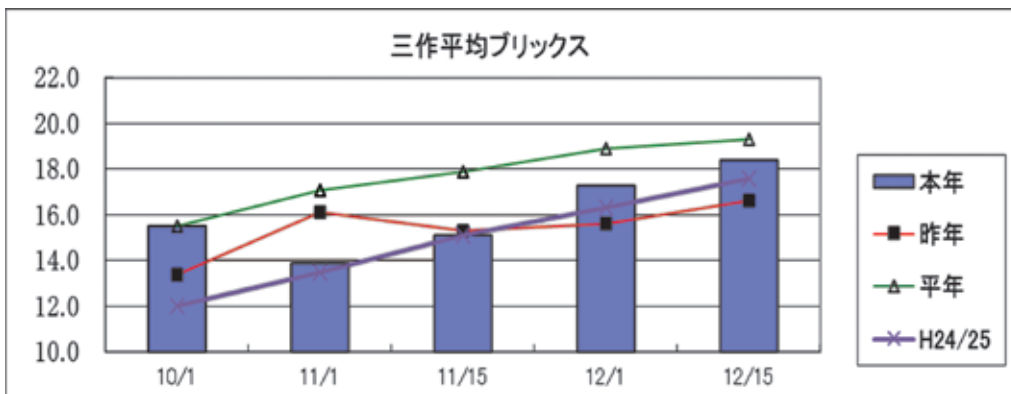


台風24号通過直後

の時よりも今年の回復速度は速い傾向にあるので、今後の糖度上昇には期待しているところです。

さて、近年日本各地を巻き込む台風が増加しており、作物の品目によっては壊滅的な被害をもたらすケース

も多くありますが、さとうきびの場合は管理作業の良し悪しに単収が左右されるデリケートな面がある一方で、これだけの被害にもめげず立派に立ち上がるたくましさをもっていることを改めて認識させられました。



株出中耕機「スcoop」

「スcoop」の特徴

- ①小型トラクターで牽引可能
- ②ハーベスター踏圧の改善
- ③ハカマの埋め込み
- ④ロータリー作業時間の1/4のハイスピード

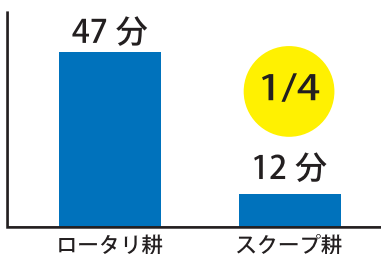
今回紹介するけん引式中耕機「スcoop」は、小型(18馬力程度)トラクターでの牽引ができ、ハカマの詰まりも無くスムーズな作業が可能です。「スcoop」はスガノ農機から販売されています。

今更なるけん引式中耕機「スcoop」は、小型(18馬力程度)トラクターでの牽引ができ、ハカマの詰まりも無くスムーズな作業が可能です。「スcoop」はスガノ農機から販売されています。

これまでのロータリー耕耘の様な回転式の作業機体系から、サブソイラー・スタブルカルチなどの様なひき割り式の機械を活用する作業体系へ変わりつつあります。

これまでハーベスター収穫直後の中耕作業は、大型機械への委託により管理作業が遅滞したり、堆積したハカマの為、小型機械では作業が困難だったりしました。

10a 作業時間 (分)



第12回OB交流会開催!!

11月30日(金)徳之島町のホテルグランドオーシャンリゾートにおいて「第12回OB交流会」を開催し、先輩方約50名が参加されました。久しぶりの語らいや演者による余興に続き、クライマックスの六調ではまだまだ軽快な踊りを披露されるなど、大変な盛り上がりを見せました。



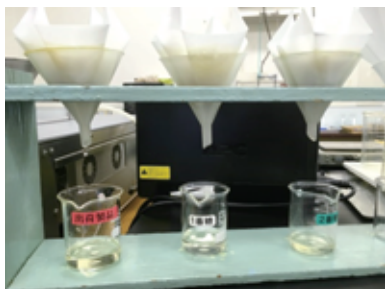
結晶設備の更新



伊仙工場では、伊仙町の事業「平成29年度さとうきび産地活性化事業」を活用し、結晶3号缶と付属する自動煎糖装置及びクリスタライザー(助晶機)を設置しました。この工事は、工場の能力を最大限に活かすために、結晶工程の能力増強を図る為のもので、完成まで1年3ヶ月を要する大規模な工事となりました。今後、地元のさとうきびを原料に、良い製品を効率的に製造してまいります。



シリーズ職場紹介(分析室)



工程紹介シリーズ第7回目は、工場内の各工程のジュースや蜜、バガスなどの成分を分析し、工程管理を行う分析室を紹介します。工場では、毎日約1,000トのさとうきび原料を処理します。圧搾機で搾られたさとうきびのジュースは、工場内の



様々な製糖設備を通りながら、約24時間を経て徐々に砂糖の結晶となります。分析室は、それぞれの工程で生成されたジュースや蜜などを定期的にサンプリングし、それらサンプルの成分を測定します。さとうきび原料の品質により、工程内のジュースの品質も常に変化する。分析室の測定データを基に、ジュースのPH管理や煎糖(砂糖の結晶化)作業を行い、品質のよい製品づくりに努めています。分析室は、工場設備を直接操作することはないですが、分析データを解析し、高品質の砂糖を製造しやすいように指示を与える工場の頭脳的役割を担っています。

セーフティーネット

基金事業発動

セーフティーネット基金はさとうきびに気象災害などによる大きな被害が出た際、一定の被害率に応じて島ごとに発動される仕組みとなつています。今回は昨年9月末の24号台風被害に対して発動されています。

これは来期以降の生産量回復を目的として投資される国庫事業で、肥料、薬剤、一部のトラクター作業等のメニューで徳之島に総額1億4千万円の支援が確定しています。

農家の皆様の来期のさとうきび生産経費の一部が軽減できるように措置されているので、積極的に活用していただき来期の高単収に繋がればと期待しております。

詳細については町毎にメニューが違うので町の農政関係の担当窓口にご相談ください。加えて、今後国の補正予算の中で追加措置が発動される可能性がありますので、同じく行政からの情報にはご留意ください。

天城町防災センターで

『さとうきび・甘蔗糖関係検討会』を開催

独立行政法人農畜産業振興機構が主催する『さとうきび・甘蔗糖関係検討会』が11月6・7日の両日、天城町の防災センターにおいて開催されました。この検討会は、さとうきびの栽培に関するさまざまな課題を話し合うことを目的に、毎年、沖縄県と鹿児島県で交互に開催し、今年で17回目となり徳之島では2回目の開催となりました。

当日は、鹿児島・沖縄両県の生産者、農業協同組合、製糖業者、行政関係者、学識経験者など約300名の方々に島内外から参加いただきました。

係者、学識経験者など約300名の方々に島内外から参加いただきました。本会の中で、品種開発の現状や今後のさとうきび栽培に関する方向性、単収向上に向けた課題の検討や取り組み事例の報告などが行われ、特に徳之島からは三京の若山さんと花徳の南郷さんに取組みの事例を報告いただきなど、好評を博した盛況の2日間でした。

第31回

奄美群島農業祭



第31回奄美群島農業祭が11月18日に天城町防災センターにて開催されました。

ちなみに本年度の奄美群島各島のさとうきび生産見込み量(小型含む)の合計は、374,107tで昨年は377,000t程減少しましたが、相変わらず徳之島が群島全体の44%を占める最大の生産地であることには変わりないようです。

本年度は群島の中でも地形・気候・圃場面積など農業に最適な島の開催ということもあり、いつにもまして大盛況とのことでした。

「平成30/31年期の奄美群島各島のさとうきび生産見込み量(トン)は下表の通り」

奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部	与論島	合計 (t)	徳之島の占有率%
24,835	77,086	165,561	82,544	24,080	374,107	44%



原料受入システム更新

弊社では原料の受入システムを数年かけて更新してきています。今年度は構内での原料トラックの受入作業を安

全、正確且つスムーズに行うために搬入手続きをバーコード認識のカードで対応するシステムに更新しました。また、カード認識と連動してトラックスケールの出入口に信号機を設置することで、構内の車両運行の管理がより安全に行えるようになりました。

弊社では製糖に関わる全ての業務において無事故無災害を第一としており、今年も皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。